

令和 6 年度 第 1 回認知症対応型通所介護幸寿苑 運営推進会議報告書

開催日時	令和 6 年 10 月 24 日 (木) 14:30～15:30
開催場所	特別養護老人ホーム幸寿苑 第一会議室
参 加 者 (8 名)	ご利用者様の家族代表様 認知症知識を有する方 グループホームセンター長様 地域住民の代表者 民生委員様 地域包括支援センター 管理者様 特別養護老人ホーム幸寿苑 施設長 特別養護老人ホーム幸寿苑 主任生活相談員 幸寿苑短期生活介護 主任生活相談員 幸寿苑居宅介護支援事業所 管理者 幸寿苑認知症対応型通所介護 管理者 幸寿苑認知症対応型通所介護 副主任生活相談員
司会進行	副主任生活相談員
議事録	管理者

1. 当日の次第

- (1)開会のあいさつ
- (2)管理者あいさつ
- (3)自己紹介
- (4)協議
- (5)その他
- (6)閉会のあいさつ

2. 会議の内容

①令和 5 年度事業報告について

- ・管理者から利用実績について報告。「令和 4 年度に比べ、合計実人数が 20 人マイナス、合計延べ人数が 63 人マイナスという厳しい結果となりました。」
- ・委員より「コロナの影響はなかったのか？」
- ・管理者より「多少の欠席はあったものの、根本的に新規利用者が年間で 8 名と少ない上、14 名の方が利用中止となっている結果でした。」

- ・管理者より事業内容について報告。
- ・委員より「利用者様は生活支援の中でアクティブを好むため、タオルたたみ等をレクリエーションに取り入れるのはどうか。仕事がなくなったらまた増やすのも一つの方法。やる気のない人にはカードに印を押してたまればお菓子などもうやる気が起きる。一週間でレクリエーションを固定しなくてもよし。」

② 令和6年度年間計画について

- ・管理者より年間計画について報告。

③ 事例報告

- ・離接事故の事例を発表。事故前の本人の行動に対してもう少し何か働きかけができたのではないかと感じ、委員の皆様の意見を求める。

委員より

- ・ハード面だけを強くしては意味がない。なぜ歩くか、歩くタイミングはいつか、落ち着く環境は何かを探る必要があるが利用期間が短く難しかったと思う
- ・生活歴から見ると、そもそも狭い場所が苦痛だったのでは？外に出る時間を作ればよかったかもしれない。
- ・事故は怖いが拘束手段はない。家族の了承を得て、エアタグ（GPS）も検討してはどうか。
- ・本人がなぜ歩くのかを理解しようとし、動ける範囲を増やすことも重要。

2. その他（委員様より意見、感想を頂く）

- ・家族代表の委員より「自分の姉が長くお世話になっているが、状態が変化しているのに職員さんの気づきが遅く感じる。家族からではなく、プロの目から見た意見をタイムリーに家族に発信してほしい。一生懸命ではなく確実に介護してほしい」
- ・施設は閉鎖された世界で家族との関りが少なく、思いが見えにくい。面会を大切にしていきたい。
- ・短期入所も同様に、半数の方が長期利用のため、家族の意見が伝わりにくい。利用者様の世界観への理解を深め、客観的な視点を持って対応して行きたい。
- ・徘徊は事故が心配で、家族の思いを汲み取ることも難しい。医療との関りも大切になって来る。
- ・義母が施設でお世話になっていてありがたい。家業を行いながらの介護は大変だが、施設へ預ける罪悪感もある。在宅介護は家族が共倒れになる恐れもあると感じる
- ・施設や職員を守る立場ではあるが、利用者様の人生の最後に係わっていることは常に意識し、本人に向かう姿勢はブレずにいてほしい。
- ・家族の思いは感謝や要望様々で、施設にとって最大のサポーターである。

令和 6 年度 第 2 回認知症対応型通所介護幸寿苑 運営推進会議報告書

開催日時	令和 7 年 3 月 25 日（火） 14:30～15:30
開催場所	特別養護老人ホーム幸寿苑 第一会議室
参 加 者 （ 6 名）	ご利用者様の家族代表様 認知症知識を有する方 グループホームセンター長様 地域住民の代表者 民生委員様 地域包括支援センター 管理者様 幸寿苑認知症対応型通所介護 管理者 幸寿苑認知症対応型通所介護 主任生活相談員 ※当日の朝、施設入所者 2 名にコロナ陽性者あり、特別養護老人ホーム 幸寿苑施設長、主任生活相談員、短期入所主任生活相談員、居宅支援事業所管理者は急遽、不参加となる。
司会進行	主任生活相談員
議事録	管理者

3. 当日の次第

- (1)開会のあいさつ
- (2)管理者あいさつ
- (3)協議
- (4)その他
- (5)閉会のあいさつ

2. 会議の内容

(1)令和 6 年度事業報告について

管理者より令和 6 年度下期の行事内容について説明する。

前回アドバイスをいただいた、生活アクティビティとして、汚物を包む新聞たたみを取り入れていることを報告すると、委員より「自分が何かの役に立っていると感じられるのは良いですね。」とのご意見をいただく。

(2)令和 6 年度事故・ヒヤリハット集計結果について

管理者より令和 6 年度下期の事故・及びヒヤリハットの報告をする。

転倒事故 4 件について、防止策についてご意見をいただく。

・自宅と違って空間が広いと転倒しやすい。立ち上がった際につかまることができない椅子やテーブルを配置し、動きやすい導線を作ると、職員が気付くまでの時間を

生み出せる。立ち上がると反応する椅子用のセンサーもある。トイレ誘導などで職員が離れる時間帯を見計らって、新聞たたみ等のアクティビティを取り入れ、集中していただく方法もある。

- ・なぜ動くかの理解を深める。
- ・職員が目から離れる時間がなぜ生まれるのか？職員間の声掛けをしっかりと行い、転倒リスクが起これやすい時間帯に職員の人数を集中させるなどの業務改善を行ってはどうか。

(3) 事例報告

管理者より暴言が多い利用者様への対応についての事例を報告し意見をいただく。

- ・感情を入れずに、事実を淡々と話し対応することで、自分のメンタルを維持できる。認知症の人に余計な説明をしても伝わらないし、自分がそれで苛立ってしまうこともある。
- ・短期記憶がないから、説明しても同じ話のループになってしまう。納得したタイミングを見て話を切り替える。気になっていることは忘れないから、本人の好き、得意な分野の話題に切り替え、気持ちをプラスの方向に持っていく。
- ・上手くいっている職員の対応を見てもらう。
- ・職員全員の対応を統一することも、個々人の対応にまっつきり任せるのも難しい。気持ちの根っこに何があるのかを理解する努力をする。

(4) 各委員からのご意見

- ・自分も長く姉の介護をしているから職員の皆様のご苦労は良く分かる。メンタルを強く保つためには淡々と対応し、運動などで気持ちをリフレッシュすると良い。
- ・事例の利用者と自分の年齢があまり変わらず、将来の自分を想像した。認知症の方はなりたくてなっているわけではないので、寄り添った対応をしてもらいたい。
- ・職員の皆様は認知症対応のプロであることを念頭に置いてほしい。それぞれに考えもプライドもあるでしょうが、他の施設など外部の対応を見ることが大切。上手くできなかった対応が上手くできるようになると、職員のモチベーションアップにもつながる。
- ・リスクマネジメントを検討しても、本人の拒否などもあり実現が難しい。施設、家族・医療が連携し利用者を支えられる環境が作れると良い。
- ・自分自身の経験を部下に伝えなければと、自分にプレッシャーをかけてしまう。メンタルを強く保つためにリフレッシュして、今後も頑張りたい。